

歌手の八代亜紀さんが宇城市へ来ました

「不知火情話」歌碑除幕式

祝！フロンティアシティ・宇城 誕生祭

不知火ともしに帰らんね
死んでもよかよ 今でもあんた
生まれ火の国 女は熱か
「不知火情話」より



トークショーでは絵やお酒の話も

八代さんの魅力に観客はうっとり

※この模様は10月24日(月)午後2時55分から3時25分までKAB（熊本朝日放送）で放映されます。

不知火温泉センターで9月18日、八代亜紀さんが歌う「不知火情話」の歌碑除幕式が行われました。

神秘の火「不知火」をモチーフにした歌の誕生と、宇城市の誕生を記念し、同温泉センターが企業の協賛を得て約百万円で製作。式では地元の不知火電燈太鼓保存会が花を添えました。八代さんは歌碑を指でなぞり「とてもいい記念碑」とニコリ。午後からは小川町のラポートで誕生祭が行われ、八代さんもゲスト出演。気さくなおしゃべりと、歌謡ショーに観客は魅了されました。



不知火温泉センターでの除幕式



歌のタイトルは八代さんの直筆

市長室から

全市を挙げて理想のまちを



市長 阿曾田 清
宇城

皆さんは、第9代米沢藩主・上杉鷹山を存じでしょうか。彼は逼迫した藩財政を再建するため、産業振興のみならず、コスト削減や組織を構成する人材の意識改革、積極的な人材登用により、民政の安定と経済の復興を成し遂げた名君です。

一、国家は、先祖より子孫へ伝承国家にして、我私すべき物にはこれ無く候
一、人民は、国家に属したる人民にして、我私すべき物にはこれ無く候
一、国家人民の為に立ちたる君にて、君の為に立ちたる国家人民にはこれ無く候
これは、「伝国の辞」とし

て彼が家督を譲る際に、君主の心得として与えたものです。その内容は現在の民主主義そのものであり、封建時代の当時においてその価値の重要性は世界からも高い評価を得ています。かのJ・F・ケネディが大統領就任の際、日本の政治家の中で一番尊敬し目標とする人物にこの「上杉鷹山」を挙げたことで、一躍世界の注目を集めました。

さて、本市においては、急ピッチで進めてまいりました3大改革（意識・行政・財政）プロジェクトが、（第1段階として）8月末までに作業を終了。行政改革審議会の審議を経て、9月議会において、「新市における新しい行財政改革の方向」と「組織機構の改編」を提案・承認されました。

今回の市役所組織の改編は、6月1日号（広報うき）で述べました時代のニーズに応じた「組織のスクラップアンドビルドの取り組みによる経営改革」によるもので、行政サ

ービスの質的向上と戦力強化が狙いです。

また、「Eランク」と最低評価を受けた本市の家計簿を見直し、これからの健全な財政運営を行うための第一歩を踏み出したと言えます。

「フロンティアシティ・宇城」として動き出した宇城市。これからの宇城市を「理想のまち」として創り上げていくのは市民の皆さんと行政が協働していくことが大切です。何事にもチャレンジして、出来ることから改革し、素晴らしい、そして誇りに思えるまちづくりに努めてまいります。最後に、上杉鷹山の有名な言葉を。

「なせば成る、なさねば成らぬ何事も 成らぬは人のなさぬなりけり」

共に頑張つてまいります。

11月の市長談話室は11月4日(金)を予定しております。参加を希望される方は、広報統計課(☎32-1111)へ10月20日(木)までにお申し込みください。

市民レポーターだより

このほど、広報統計課が募集した市民レポーターの委嘱状交付式を行いました。委嘱したのは、矢澤敏恵さん（33歳・三角町郡浦）と古賀結美子さん（58歳・松橋町曲野）の2人。来年6月30日まで、身近な話題や行事の情報提供・取材など、広報紙づくりに協力していただきます。2人の市民の目から見た宇城市の今を、「市民レポーターだより」として、随時お届けします。

小規模施設が勉強会



矢澤 敏恵

松橋町に「フォーシーズン」という介護付有料老人ホームがあります。明るく居心地の良い空間で、18人の入居者を14人のスタッフが支えています。高齢化が進む中で、このような小規模施設はより良い介護を提供し、安心した老後を過ごすことのできる施設として注目されています。

介護施設で課題となるのは、サービスの質の維持・向上を図ることですが、小規模施設

では職員が少人数であり、人材育成の機会が少ない状況にありました。この状況を何とかしたいと思っていた「フォーシーズン」が中心となり、ネットワーク作りが始まり、その輪は、県内各地に広がりを見せています。

そのネットワークの勉強会が8月19日に行なわれました。今回は、私も参加してきました。今回は、青葉病院の古澤コメダイカル部長が「介護職のストレスについて」の講義を行い、参加者は熱心に耳を傾けていました。この勉強会を通じて、本当の意味での介護のプロが育つことを期待したいと思います。今回の勉強会は11月です。

市内点描



古賀 結美子

松橋小学校昭和24年卒の同級生グループ「イレブン会」（内山厚代表・会員16人）のメンバーは、このほど松橋町郷土史研究会の一森綾子さんから「松橋三十三観音」について話を聞きました。

この会はすでに10年来、月1回の集まりを持ち旧交を温めています。古希を迎えた今年、町も宇城市に変わりました。今年、町も宇城市に変わりました。今年、町も宇城市に変わりました。

（1858）年建立。この年の春はやった疫病払いのためだったのではないかと思います。一森さんは岡岳への散歩の途中、それまでお地蔵様だと思っていた石像が実は観音様だったことを知ります。以後興味深まり、点在する町内各所の聞き取り調査に着手。「松橋三十三観音マップ」を作り上げました。（まだ所在不明のものもいくつかあり）懇切な説明を受けた会員たちは「町内にこんなにたくさん観音さんがござったとは？」とか「ここには参りよったとバイ」と懐かしむ人もいたり、去り難い面持ちでした。

この後、一行は三角西港へと車を走らせ、三角観光ボランティアの斉藤万芳さんから西港の歴史とそれにつわる悲話等に聞き入った後、夕映えの御興来海岸(宇土市)へと向かいました。古希を迎えてなお、好奇心旺盛の「イレブン会」は元氣いっぱいです。

※市民レポーターへの取材依頼などは広報統計課(☎32-1111)まで。